



『ウィーン古典派の巨匠』三部作 Seventh Art Production SEV175, SEV103, SEV156
請求記号●VX641,VX639,VX640他

作曲家を探す旅へようこそ

野崎 詩織

「モーツァルトはドラマだ」（ピアニスト・ラン・ラン）

皆さんはハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンにどのようなイメージを持っていますか？

DVD『ウィーン古典派の巨匠』三部作—In Search of Haydn/In Search of Mozart/In Search of Beethoven—は、作曲家の生涯を年代順に追いながら、その時々作曲された作品の演奏を交え、演奏家、研究者が作曲家について語るドキュメンタリーです。監督のフィル・グラブスキーが実際に彼らの足跡を辿り、その姿を求めて世界をめぐるります。

それでは早速DVDの見どころをご紹介します。

POINT1 史実に忠実な人物描写

作曲家の生涯を追った映像作品は数多くありますが、このドキュメンタリーは記録をもとに、史実に即して作られています。また、作曲家自身の手紙、日記を引用することで、彼らの心象風景も浮かび上がらせています。

ゆかりの地を訪ねる映像では、現在の様子だけでなく当時の版画などに描かれた風景を交互に見せることで、現在と過去をつないでいるところも特徴的です。

POINT2 豪華な出演者と迫力の演奏シーン

世界的に活躍する演奏家たちの演奏シーンは、このドキュメンタリーの大きな魅力の一つです。指揮者のロジャー・ノリントン、ピアニストのロナルド・ブラウティガム、ソプラノ歌手のルネ・フレミング、今年8月に逝去したフランス・ブリュッヘン指揮による18世紀オーケストラなど、名だたる演奏家ばかりです。ただし、多くの作品が紹介されるため、演奏された作品が抜粋であることは否めません。しかし、間近で撮影された演奏、貴重なリハーサル風景を捉えた映像は見応え十分！

また、研究者たちも豪華な顔ぶれです。ニューヨーク世界音楽大の編者、スタンリー・セイディーや、楽譜校訂者として知られる、ジョンサン・デル・マーなども登場します。

POINT3 名言続出！演奏家の言葉

演奏はもちろんのこと、出演者からは魅力的な名言も飛び出します。演奏家たちが、いかにして作曲家についての理解を深め、作品と向き合っているのか、ほんの一部ですがご紹介しましょう。

「天才は真実を暴く明かりを持っている」（バリトン・サイモン・キーンリーサイド）

「喜びに満ち、音楽にしたいと思っただけで、アイディアがたくさんあって、もどかしさや人生への渴望、内なるものを共有したいという欲求が感じられます」（チェリスト・ト・ゴートイエ・カフソン）

「この曲の演奏者は歓喜するのではなく、歓喜という『体験』を共有する」（指揮者・ルイ・ラングレ）

これらはどの作曲家についての言葉でしょうか？ぜひDVDで確かめてみてください。

演奏シーンを見てみると、言葉に裏打ちされた深い洞察、尊敬の念が演奏に表現されていることが伝わってきます。時には思わず笑ってしまうエピソードや、目からうろこの大胆な分析もあります。しかしどの出演者からも、第一線で活躍する今なお、作曲家の姿を探し続ける「旅」へのあくなき探求心と情熱が感じられるでしょう。

では最後に、音楽学者のクリフ・アイゼンがベートーヴェンについて語った言葉から。

「我々のような学者や音楽家やファンが彼の個性を理解するためには、過去だけでなく、現在や未来にも目を向ける必要があるだろう」

皆さんも作曲家を探す旅へ出かけませんか？